



妙の光

通刊 89号 復刊 69号

2010年3月15日(季刊)

角田山妙光寺 発行

〒953-0011
新潟市西蒲区角田浜 1056
TEL 0256-77-2025

境内の奥に大きな梨の木があつて、四月下旬に真っ白で小ぶりな花が木一杯に咲く。五弁の花が数多くいっせいに開き、風がなくとも五、六日で散ってしまう。桜の花とはまた違つた、野生の素朴さと可憐な姿で、新緑を迎える春の終わりの花という印象がある。

一般的には果樹として低木状に仕立てられるそうだが、元々は高木で、野生だとこの木のように五～七mになる。建物の近くにあつて、枝が屋根に覆いかぶさつている。

そのため、夏に直径5cm程の実がなると昼はカラスが集団で飛来してついばむから、屋根に落とされる実がドン、ドンと音がして昼寝もできない。夜はムササビが来て、一口かじつては落とし、また一口かじつては落とす。そちらの音は愛らしい姿を思うと気にならない。

晴天や白き五弁の梨の花 原 石 鼎



お彼岸と生前戒名の方々

小 川 英 爾

戒名はお釈迦様に弟子入りした証ですから、生前に本人の希望でお付けするのが本来の姿で、お葬式で付けるのは間に合わせとも言えます。妙光寺では八年前から毎年の秋、戒名授与式として希望される十五名前後の方におつけしています。

皆さんには喜んでいただき、前回も直後に「自分にぴったりの戒名をいただき、なんだか嬉しくて兄弟や友人にも見せて羨ましがられました。これからはまた別の人生が開けるようで、夫婦ともども感謝しています」というお手紙をいただきました。

同じ日に参加された安穏会員のMさん（男性・60代）からも、つい先ごろ「機会があつたら皆さんに紹介してください」と次のようなメールが届きました。

妙光寺・戒名授与式に参加して

小春日和のよき日に、妙光寺の戒名授与式に参加させていただき、心が洗われる想いでございます。私が参加させて頂きましたのは、本年五月身体に重

大な事態が進行している事実が判明致しました。急遽、精密検査、手術等々と全てを病院にお任せの毎日となってしまいました。現在は体もかなり回復し、従来からの趣味やボランティア活動等を少しずつ再開しております。

私は常日ごろは宗教心を意識したことはありませんでした。しかし、自分の周辺で発生する葬儀には参列しますし、時には神社にお参りしお願いを致します。これは平均的な日本人の姿なのではないでしょうか。思いがけず重大な病名を宣告され、闘病生活を余儀なくされた時点で考えたことは、いずれはお世話になるのであれば、早い方がよい。色々な準備を可能な限りやってしまおう。併せて、この際少しは勉強してみるのもよいか、ということでした。

授与式当日は、式の前に住職による会の趣旨と日程説明等がありました。超概略ではありましたが日蓮宗に全く知識のない私でも解りやすく、新人教育の手本とも言えるものでした。式は信者の皆様の見守りの前で厳かな雰囲気の中で執り行われ、いよい

よ自身が日蓮宗の信者になつたとの思いに至りました。立派な戒名をいただきました。それ以降は不思議なことに日に何度もお題目が口から出るようになつたのです。不思議です。気持ちはとても落ち着いています。何の不安もありません。残された時間は気持の整理や身の周りの整理に当てたいと思います。

そうそう、お題目は車の運転席に座わつた時点でも出るので、安全運転が出来そうな気になります。それでは皆さんお題目を齊唱致しましょう。

南無妙法蓮華經、南無妙法蓮華經、南無妙法蓮華經

やはり同じ日に新潟市の真島重一郎さん（70代）も生前戒名を受けられました。事前に弱つた体で奥さんに付き添われて、「元気なころはバイクでお寺に来ては両親の墓参りをして、山に入つて山菜取りをしたりしました。でも、この病気にかかつてすつかり駄目になりました。ご前様に今後のことやら、戒名のことを相談したくて出かけてきました」と。その折にこれまでの人生をお聞きしました。

旧西川町で農家の次男として十番目に生まれたからこの名前がついた。当時の農家はどこも貧しくて、学校になんか行かせてもらえない。そこで農家の仕事を手伝いながら、遅れて夜間の定時制高校に入学。在学

中に運よく当時の国鉄・越後曾根駅に臨時人夫として採用されたのが、二十二、三歳のころだった。さらに一所懸命さを認められて本採用になり、県北部の坂町機関区に配属された。そのときも定時制高校村上分校に転校して学業を続け、五、六年かけて卒業した。当時は高卒の職員が少なく、数学と機械が好きだつたことも幸いし、運転士としてSLから始まり、ディーゼル機関車、電気機関車、そして上越新幹線の開業にも携わった。同時に機械設備の保守にも長けていた

定年までの三十三年間を過ごしたなかで、忘れることのできない事故が二回あつた。一度は新潟—青森間を走る「特急白鳥」を運転中に、線路上を歩いていたお婆さんをはねてしまつたこと。二度目は踏切を渡り切れなかつた幼い男の子をひいてしまつたことだ。この子が当時の長男と同じ三歳くらいだったことが、余計にショックだつた。ところが、男の子の上を列車が通過して、車掌が抱きあげたらその子がワードと泣き出した。お婆さんのときも、背負つていたカゴと、はね飛ばされて落ちた稻刈りを終えた田圃の稻わらがクッショーンになつて、けがひとつなかつた。それでも始末書やら何やらで大変だった。

「母親が信仰熱心でいつもお参りする姿をみていたので、私もお参りを欠かしたこと�이ありません。いつも素直で感謝の気持ちで生きてきました。こうして大過なく勤め上げることができたのも、仏様と両親のおか

げだと思っています」。

授与式の当日、長男に付き添われた真島さんは体調がすぐれず、横になつて辛そうにしながらも、真剣に私の話を聞いてくださいました。そして年が明けて今年の一月末、「親父の容態が悪くてあと一週間ほどと先生に言わされました。その節はお願ひします」と、長男から電話があり、その十日後お葬式になりました。

お通夜の席、真島さんの友人ははじめ多数の参列者の前で長男が思い出を語りました。「多趣味な親父でした。ボーリング、盆栽、石磨き、囲碁、詩吟、民謡、山菜取り、バイクも大好きでした。何事も突き詰める性格でした。越後線の列車の運転士をしていた頃、私が毎日夕方五時に、家の近くの寺尾駅に弁当を届けるんです。そのとき電車を降りてきて『ありがとうございます』と受け取るんですが、何百人の命を預かる姿が輝いて見え、子供心に誇らしく見えたことを記憶しています。発病して一年余り、家族で一所懸命に看病しました。私も勤務先から高速道路を使って、一時間ほどの道のりを病院に通いました。元気な人でしたが、病気になつてより深く語り合えるようになつた気がします。『ありがとうございます』と言つてくれました。またある夜、ベッドの上の私の膝枕でこんなことを言いました。生前戒名をもらつたのは死ぬ準備じゃない。これから輝いて生きるためなんだ、って。いつも前向きな、そんな親父でした……」。

今年の新潟は二十六年ぶりの大雪でことのほか厳しい冬でした。二月六日、新潟市内でも朝から猛烈な地吹雪のためにあちこちで車が視界を失い、数時間も雪に閉じ込められました。そんなさなか寺の電話が鳴りました。真島さんの長男からで「ご前様、いま高速道路の路側帯にいます。数メートル先しか見えない地吹雪のなか、五十台近い車の玉突き事故で、けが人が救急車で運ばれています。私は間一髪で逃れることができたのですが、すぐ後ろにいた車が私の前の車に追突したんです。すさまじい光景です」。興奮して声がうわずつっていました。そして「仏様と、死んだ親父に助けられた気がします」と。

お彼岸はお墓参りするためだけの日ではありません。感謝の気持ちを忘ることなく、自分を戒め、腹を立てず、前向きに努力すること。そのためには物事をありのままに見て、何が最も大切なことかを理解する心が大切です。こうした仏様の教えに一步でも近づくことを心がける一週間がお彼岸です。

今日彼岸、菩提の種をまく日かな

鷺村

*今年の戒名授与式は十月三日（日）です。

寺の動き

●鎌田上人荒行成満

昨年十一月一日から遠寿院大荒行堂で、百日間の修行に入つていきました鎌田上人が、二月十日元気に満行を迎えました。この間、毎日朝二時半起床、

三時から夜十一時までの七回の水行と、読経と写経、祈祷のための修法の鍛練

に明け暮れるという日課を過ごします。睡眠時間は三時間に満たないという過酷さです。今年は十二人が挑んで出てこられたのは十人でした。

三十五日目を過ぎると僅かな時間の面会が許されます。妙光寺では一月十六日

に二十代から八十代まで三十人が、激励に遠寿院を参拝しました。新潟、都内、千葉、遠く静岡からも参加されました。上野駅に集合して先に小伝馬町の身延別院を参拝、その後遠寿院に向かいました。遠寿院ではお堂で修行僧全員によるご祈祷をいただき、ご住職の法話の後、

鎌田上人に日々の様子を聞き、残りの期間の精進を願つて後にしました。その後浅草に出て寄席に入るなど、正月の名残を味わい夕食を取つて解散しました。

報告し、希望者の祈願成就を祈る帰山奉告式を行いました。午後二時、前日までの吹雪と打つて変りざわやかな快晴のもとで水行を行い、引き続き本堂での法要には、六十人余りが参加されました。



遠寿院のお堂の前で

二月二十一日、仏様に無事の成満を



雪の残る院庭での水行



●落ち葉掃き

暮れの十二月、境内の落ち葉掃き「ボランティラ」をお願いしましたら、四日間で延べ三十人余りの方々が汗を流して下さいました。初日は快晴の小春日和、見る見る間にきれいになり、さらには落ち葉焚きでの焼き芋の味も最高でした。「今度は草取りもやろう」との声には感謝です。



休憩中に

●お経の練習会

冬で農家が比較的暇な時期、お寺に集まってお経の練習をする地元角田浜の恒例行事を、一月末から土曜日ごとに三回行いました。次の世代を中心にして四年目になり、すっかり慣れて次の段階へと進むなど、充実した会になりました。



花皿を持ち、声明にあわせて散華の練習

●人形浄瑠璃公演賑わう

江戸初期に原本が海外に流出し、一九六二年にイギリス大英博物館で発見された人形浄瑠璃を、「越後猿八座」が三〇〇年ぶりに復活上演しています。妙光寺でも一月二十四日、旧巻町竹野町の越後角太夫さんが情感あふれる三昧線と語りを披露。十五人で操る人形が涙と笑いのストーリーを演じて、全段三時間があつという間でした。本堂



大がかりな舞台でした

の半分がステージで、残りの客席が九十人余りの観客で一杯でした。

●階段に手すり設置

山門と、客殿大玄関の階段に手すりを設置します。山門は石段が古く、また降りた所の参道も『洗い出し』という玉石のため、雨など濡れた日は特に滑りやすくなっています。大玄関は高齢で足の不自由な方も最近多くなり、階段の昇降に難がありました。手すりの設置が遅かつたくらいで、これまでご不便をおかけしたことをお詫びします。

●四菩薩像金泥描き入れ

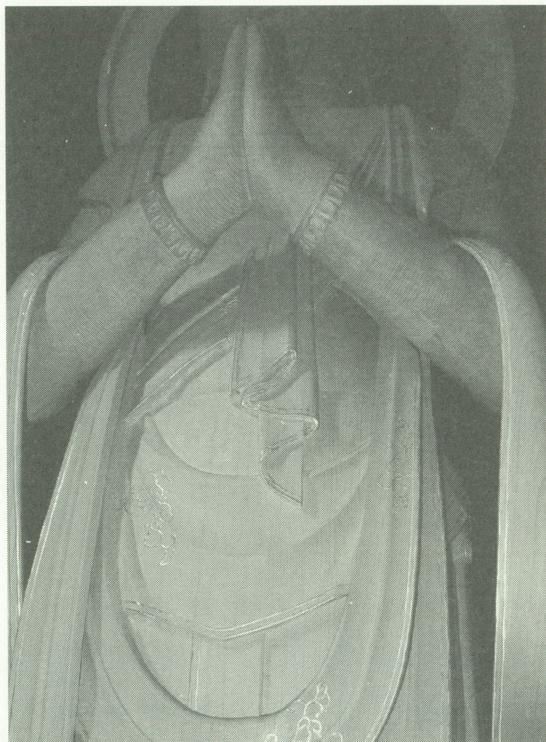
昨年のお釈迦様像に続き、四菩薩像への金泥書きが完成しました。新しい白木のままのお像に鳥のフンなど汚れがつき、そのうえ木肌が日に焼けて色がくすみ、背景の壁に沈んで見えにくくなつたための作業です。汚れを落とし、お衣のひだに金色の線を書き込んで、以前にも増して厳かなお姿

●安穏廟增设地鎮祭と予約受付

増設計画中の安穏廟の開設許可が二月に新潟市保健所から出ました。名称を『安穏廟・杜の安穏一池の上』として、三月一日に地鎮祭を行い、七月完成予定です。場所は山門に向かって左手に

保健所の指導で今回は一期目として一三六区画の増設ですが、すでに五十件を超す希望者が待機中です。待機の方には日付順に予約受付し、工事完成後に区画決定と正式契約する旨をお知らせしています。

新たな用地のため保健所への申請手続きに伴なう測量や、書類作成作業に予想外の費用がかかりました。さらに設備の新設等工事費もかさみそうで、



金色の模様が上品に光ります



予約申込以外の方は永代使用料の若干の値上げも検討しています。ご承知置きください。詳しくはお問い合わせください。



櫻の木を移植中



●新聞掲載

安穏廟が始まったのが平成元年ですから、二十年以上が過ぎました。この間、全国的に墓や葬儀の形が大きく変わり、安穏廟はそのきっかけの一つと言われています。この二十年の変化に関わった人たちを、朝日新聞が「人脈記」という連載で紹介します。四月五日から夕刊一面の下段にカラー写真入りで八回連載の予定です。一回目は話題になつた映画『送りびと』の関係者、二回目に小川住職他で、昨年暮れに取材と写真撮影がありました。全国版で夕刊のない地域は中の方で何ページ目かになります。

また、現在発売中の『月刊国民生活』(国民生活センター)特集「いざといふとき—葬儀・お墓・相続」では、杜の安穩の写真が紹介されています。

●参道整備計画

市道から駐車場に入る道路脇の宅地を昨年購入し、家屋を解体しました。その昔は山沿いの墓地前の道路しかな

く、これが妙光寺への参道でした。現在の市道は新しく作られたもので、妙光寺への入口が分かりにくく、変形で入りにくいのはそのためです。大型バスの進入にも支障があります。

時代の変化に合わせ、この道路を今回購入した土地に付け替えて広げるなどの整備を検討中です。費用の全額を妙光寺が負担する条件で、道路管理者である市役所との基本合意ができました。全長で約一五〇mになり、両側に桜並木を考えています。

かなりの費用がかかりますが、今のことろその見通しがありません。そこで、来る二〇一三年に迎える妙光寺開創七〇〇年の記念事業の一環として、境内の環境整備をする案がでてきます。ただ市役所との基本合意があり、一部で関係する地権者の同意をいたぐる都合上も、道路工事だけ先に着手する必要があります。

先の本誌でご案内したところ、役立てて下さいと四人の方から計九十八万円のご寄附をいただきました。詳細は

これからですが、ご協力いただけます
方にはぜひお願いしたく存じます。

写真の左手の道路を右手中央に移設
し、最終的には新たに五十本の桜を植
えた並木と歩道を整備するなど、景観
が一変します。



市道から見た計画地

●池の鯉がサギに

昨年秋、三重塔の池に羽生信二さんが錦鯉の稚魚二〇〇匹程を放流されました。かなり成長して餌の時間には集まつてくるほどになり、お参りの方々も楽しんでいました。ところが冬のある時期、鷺が飛来して食べつくしていました。気をつけた方がいいと正月に助言をいただき、春には網を張るなどの対策を検討していた矢先のことでした。

●縫い物をお願いできませんか
檀信徒の方々が法要に式衆として参加される際に着用していただく、略式の袈裟を手作りしたいと計画しています。簡単な袋縫いに紐をつける程度の作業ですが、ボランティアでご協力いただける方を募集します。お申し出ください。

●春の清掃ボランティア

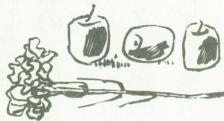
「ご判様」行事を前に、清掃ボランティアをお願いします。堂内のガラス拭き、クモの巣取り、仏具拭き他の清掃を予定しています。左記の日程でご都合可能な日、半日でも結構です。事前申込不要、当日に昼食ご持参で直接お出かけ下さい。

四月二十二日（木）

午前九時～午後四時

二十三日（金）

午前九時～午後四時



ご案内

●ご判様

三百年は続くかと言われる妙光寺の伝統行事、「ご判様」を四月二十九日に催します。日蓮聖人が島流しの佐渡から鎌倉に戻られる際、警護の役人に来世での再会を約して遣されたご判（印鑑）をご開帳したのが元です。昭和三十年代まで近在はもとより全国からの信者が押し寄せ、小学校が午後から休校になるほど盛大なお祭りでした。

いまその面影しかありませんが、日蓮聖人の遺徳を偲び、地域に新緑の季節を告げる行事として続いています。昔から「降つて



昨年のお練りの模様

「いの雨もやむ」と言われてきた、雅楽を先頭に境内を練り歩く稚児行列は華やかで厳かです。往時は境内に露店が立ち並びましたが、昨年から数珠屋さんと茶店の二店が復活しました。どなたでも気軽にお出かけください。今年のお手伝い当番は曾根・升鴻地区、のぼり立てと

〈祈願・回向のご案内〉

ご判様の志納袋を檀信徒にお届けします。当日十時までにお参りがてらお持ちいただくか、地区世話人経由または郵送等で事前にお届けください。「家内安全」や「身体健全」等の祈願

と特別回向は、午前十一時の大法要で読み上げしてお札を差し上げます（遠方の方は後日郵送）。施餓鬼塔婆は午後一時半の法要で塔婆を立てて、ご供養します。

△お稚児さん募集

お練り（法要）と、法要に出仕するお稚児さんを募集します。四～六歳位の男



女どなたでも、先着十名まで。衣装一式はありますので、

当日に白足袋と参加費五千円をご用意ください。法要の

後に「発育健全」のお加持をして、お札、記念品、記念写真、昼食がつきます。付き添いの服装等、詳しくは直接お知らせします。

●日帰り研修会

三月二十七日に日帰り研修会開催を前号でご案内しましたが、お陰さまで三十名の申込みをいただき、受付を締め切りました。参加の方たちと相談のうえ、今後毎月一回か二回、二時間程度の開催を継続できなか検討します。今回都合のつかない方もお問い合わせください。

●馬頭琴とホーミーの調べ

「スーサーの白い馬」で有名な馬頭琴。馬のしつぽの毛の弦を持つ、その楽器の音色は、風のように軽やかで、遊牧民の手のひらのように乾いて、そして温かい・・・。モンゴルの奥地を旅し、遊牧民より沢山の歌を教わった岡林立哉が、モンゴル西部・アルタイ山脈に伝わる神秘の声、ホーミー（一度に二つ以上の音が聞こえる歌唱法）。そしてモンゴルのお話とともに送る、贅沢なコンサート

です。

三月二十七日（土）本堂で午後7時開演。

入場料千円。主催・まきおやこ劇場

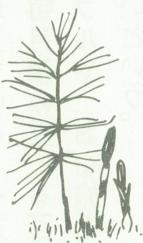
●うさと展・たかはしひんコンサート

服飾デザイナー「さとううさぶろう」さんがデザインし、タイのエイズ感染者の女性たちが天然纖維（綿、麻、絹）を草木染め、縫製した服を展示販売します。とても着心地がよく値段も手ごろで人気が高く、妙光寺では五回目になります。服の売り上げでエイズ感染者の貧困が改善し、村の男たちの出稼ぎが減りました。併せて、子供も大人も楽しめる「たかはしひん」さんのコンサートを開催します。

うさと展 五月八日（土）～十日（月） 客殿
たかはしひんコンサート

五月八日（土）午後3時開演

院庭（雨天時は本堂）
主催・まきおやこ劇場



お葬式の費用



葬式に関する相談が多くあります。個別の事情があるので、なかなか紙面ではお知らせしにくいのですが、三月一日付の新潟日報（県内で一番読まれている新聞）に『葬儀費用の目安は？』という記事がありましたので、抜粋してご紹介します。

全国的には祭壇は大きさによって20～数百万円、棺は布張りか白木にするかで6～30万円の差がある。次に式場使用料。葬祭業の「メモリアルアートの大野屋」によると、民営斎場で10万～90万円、公営は2万～10万円、寺院は20万～80万円とこれも大きな幅がある。難しいのが宗教者へのお布施だ。「目安は30万円ですが、日頃の寺との付き合いの程度にもよります。菩提寺

があると60万円くらい出す人もいるし、戒名も高いランクだと100万円は掛る」と。（以上の他に靈柩車、人

件費、香典返し、飲食代がかかります）

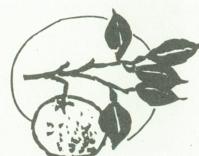
新潟県内では「かざま会館（新潟市中央区）」の場合、会葬者50～60人の一般的な葬儀だと費用は100万～120万円程度。このほか、寺院関係の費用や通夜の飲食接待費などが必要になる。（葬儀費用の総額は、新潟県を含む北陸4県の平均が252万円）同社役員の石田さんは「葬式や相続、形見分けの希望を記入した『エンディングノート』を用意しておくと便利。遺族の負担も減らせる」と薦める。

県葬祭業協同組合によると、生活様式の変化や景気悪化の影響で、親族だけの小規模な「家族葬」や、火葬だけ

の「直葬」が増えている。一方、将来の葬式費用を毎月積み立てる互助会制度の解約トラブルや、お布施をめぐる相談は絶えないという。

山中理事長は「安さをうたうサービスが必ずしも得だとは限らない。お布施の金額など不安な点は、寺に直接確かめても良い」と呼び掛けている。

新潟県内でも地域差があり、一概には言いきれないようです。妙光寺には戒名料はありませんし、宿泊もできる「京住院」は公営斎場とほぼ同額。その他ここに紹介されている額よりは確実に少額です。事前のご相談は檀信徒でなくともお答えしています。



「百歳までの折り返し点」

小川なぎさ



梅のつぼみが紅く色づいてきました。春はもうそこまで来ています。雪国で暮らしていると本当に春が待ちどうしいものです。暖かくなったら冬眠から覚めるようにあれもこれもと忙しくなるのですが、暖かいのは気分が良いものです。でも花粉症の方には辛い季節でしょう。なんとか乗り切ってくださいね。

カナダでのオリンピックも終わりましたね。私はカーリングがとてもおもしろかったのですが、スケートで銅メダルの高橋選手がショートプログラムで使った「EYE（アイ）」という音楽に驚きました。作曲はアコーデオン奏者のコバという人、実はこのコバと私は中学時代同級生だったことがあります。また当時の音楽の先生とはいっても年賀状や「コバがテレビにでるよ」というお電話をいただいたりしているのですが、安穏廟の納骨でおなじみの石屋の古井さんがこの先生の教え子で、お客さんだということを知りました。それてしまじみとご縁ということにつ

いて考えたのがつい最近のことです。第一回安穏フェスティバルの直前にコバのコンサートに行つたとき「実はね、うちのお寺でこんどヤスカズという人を呼ぶんだよ」と話したら「あーよく知つてゐよ一緒に音楽したことがある」というのでびっくりしたことも思い出しました。「今度うちにも来てね」なんていついたのですが、彼はみると見る有名になつてしまつたので、かなわぬ夢となりました。あれから二十年。いろいろな縁にむすばれここまでやってきました。

このごろはコンピューターで買い物をするとか、急がない用事ならメール、あまり直接人と話をするということが少なくなりました。けれども私はお茶を飲みながら世間話をすることが自分にとって、とても大切な時間だと思えます。そのときに教えてもらうお話はかけがえのない貴重な生の情報だからです。笑つたり泣いたりというたわいのない話の中に希望を見出したり反省したりということが多いのです。無駄

とも見える時間を大切にしたいです。宝くじがあたつたら境内の一角に喫茶店でもつくつて、一日中お茶飲みをするというのが夢なのですが（笑）私は来月四月にめでたく？五十歳になります。先月娘の引越しで行つた横浜の中華街で面白半分に手相をみてもらつたら、百歳まで元気に長生きするということだつたのでようやく半分ということになります。娘たちへの仕送りも終わりなので、新しい始まりの計画をたてる事と、実際には生命保険の見直しや、身辺整理から始めて楽しんでやつっています。身軽になつて第二の人生を！なんて意気込んでいたら思わず伏線があり、集中して何かをすると頭痛、耳鳴り、肩こりなどがひどくなつて、イヤホントに勘弁してほしいという感じなのです。無理をしてはいけないよということなのです。薬で治すといふほどでもないので困ります。どなたか何かよい情報がありまつたら是非教えてください。たとえば整体やハリがいいよとか、更年期の過ごし方とか・・・

新年度が始まります。池の上の安穏廟の工事も始まりました。あわただしく動いている妙光寺、私は少しづつ一线から退いていき、ゆったりとお茶飲みをしようと思つてゐます。遊びに来

とも見える時間を大切にしたいです。宝くじがあたつたら境内の一角に喫茶店でもつくつて、一日中お茶飲みをするのが夢なのですが（笑）私は来月四月にめでたく？五十歳になります。先月娘の引越しで行つた横浜の中華街で面白半分に手相をみてもらつたら、百歳まで元気に長生きするということだつたのでようやく半分ということになります。娘たちへの仕送りも終わりなので、新しい始まりの計画をたてる事と、実際には生命保険の見直しや、身辺整理から始めて楽しんでやつっています。身軽になつて第二の人生を！なんて意気込んでいたら思わず伏線があり、集中して何かをすると頭痛、耳鳴り、肩こりなどがひどくなつて、イヤホントに勘弁してほしいという感じなのです。無理をしてはいけないよということなのです。薬で治すといふほどでもないので困ります。どなたか何かよい情報がありまつたら是非教えてください。たとえば整体やハリがいいよとか、更年期の過ごし方とか・・・

新年度が始まります。池の上の安穏廟の工事も始まりました。あわただしく動いている妙光寺、私は少しづつ一线から退いていき、ゆったりとお茶飲みをしようと思つてゐます。遊びに来

行事案内



春のお彼岸法要

午前十時半

安穩廟法要
春のお彼岸中日法要
——本堂

おとき（どなたでも当日受付で申込いただけます）

午後一時 荒行報告 鎌田上人

お説教

住職

お彼岸は春秋二回、陽気もよくなり昼夜の時間が同じになるこの日、心の偏りをなくして仏様の教えを守りましょうという古くからの行事です。ゆっくりお参りいただき、気心知れた檀信徒と安穏会員で当番による手作りのおときをいただけます。お誘い合わせお出かけください。

ご判様

四月二十九日（祭日）午前八時半受付開始（詳細は別紙で）

日帰り研修会

三月二十七日　日帰り研修会
受付締切。四月以降の日程はお問い合わせください。

●馬頭琴とホーミーの調べ

三月二十七日（土）本堂で午後七時開演。入場料千円。

●「わと腰・たかはしひぐる」のサート

うさと展
五月八日（土）～十日（月）

コンサート 五月八日（土）午後三時開演



長くて厳しい冬でしたが、皆様いかがお過ごしでしたか。角田浜は報道された割に積雪は多くなかつたのです
が、強い風と低温で地吹雪のすごい日
が続きました。晴れた日も少なかつた
ですね。インフルエンザの騒動もあり
ました。

そんな冬も終わり、陽光の春が目前です。境内が花や緑で埋まる季節がやつてきます。三月下旬には鳶も鳴き始めます。春も行事が盛りだくさんです。どうぞ足を運んでください。

時系列に継ぎ表紙をカバーにしました
他のページもできるといいのですが、
経費がでません。インターネットをな
さる方は、ホームページで他の写真と
ともにカラーでご覧いただけます。

小川記